

日本企業とのミーティングでの駐日英国大使のスピーチ全文

2016年6月29日

本日はご多忙の折、ご足労頂き大変ありがとうございます。直前のご案内にもかかわらずご出席いただき、心より感謝申し上げます。日頃の皆様と英国との親密なパートナーシップと多大なご支援の賜物と存じます。

先週金曜日、英国は、加盟して43年を迎えるEUの、残留か離脱かを問う国民投票において、離脱との結果を出しました。おそらく英国史上もっとも規模の大きい民意を問う機会に、3千3百万人が投票を行いました。

キャメロン首相は先週金曜日の声明で、辞任を表明しました。次期首相選出の日程に関しては、まず今晚から明日の昼までの間、与党の保守党内で、立候補者をつのり、7月22日までに、候補者を2人にしぼります。そして、15万人の保守党員が党首を選び、その結果は、9月9日までに公表されます。こうして、首相が、交代します。

この新しい首相が、EUとの交渉を指揮し、離脱交渉を開始するに必要な、EU基本条約50条の発動や、離脱の公的、法的プロセスの時期を決定します。

今週月曜日には内閣が召集され、財務相および中央銀行総裁が、金融市場の安定に向けた今後のステップについて、声明を発表しました。

ここにお集まりの皆様の大多数は、違う投票結果を望んでおられ、政府のEU残留に向けたキャンペーンに強力なご支持もいただきました。皆様のお力添えに、改めて厚く感謝申し上げます。

日系企業は長期的な展望を持つビジネス戦略において高く評価されています。国民投票後の英国のことも、短期的な見通しではなく中長期的なビジネスの展望を視野に、状況を注意深く分析されていることと存じます。

ここ数日、外為市場や株式市場は国民投票の結果のショックからくる過度な不安がやや落ち着き始めています。中期的に英国は外国資本にとって非常に魅力的な場所でありつづける、と強く考えています。

では、なぜ、英国が魅力的であり続けるのでしょうか？

まず、英国経済は世界 5 位であり、英国の基礎経済は力強く、失業率は過去 10 年間で最も低く、また就業率は記録的な高さです。銀行の資本需要は以前の 10 倍の規模であり、財政赤字は国民所得の 11%、これはリーマンショック直後の数字ですが、今年は 3%を下回ると予測されています。

次に、英国の経済は世界で最も柔軟な労働市場を持ち、欧州でトップの成長率と、世界の才能を惹きつけていると、評価されています。そして高等教育を受けた高い技術力を持つ労働人口が西ヨーロッパにおいて 2 番目に多く、ビジネスはその恩恵を受けています。

G20 の中で最も低い法人税を設定している国のひとつとして、低税率を進め、2020 年までには現在の 20% から 17%に、さらに下げます。英国の税制は欧州の経済主要 10 カ国の中で、最も事業がしやすいと評価されており、欧州主要 5 カ国の中で最も低い社会保障費となっています。

また世界をリードする R&D の環境、世界の上位 8 つの大学のうち 4 校が英国にあり、自然・物理科学分野のノーベル賞受賞者は、80 名を数えます。非常に生産性の高い研究を誇り、170 を越える機関から成る、素晴らしく力強く多様性に富んだ高等教育セクターも存在します。皆様の会社も多くの英国の大学・研究所と R&D 分野でのコラボレーションを促進されていると存じます。

そして、世界一のファイナンシャルセンターとしてのロンドンや金融サービス、多分に日本企業のお陰による記録的な生産量の自動車セクター、ライフサイエンスや国防など、長年に渡り高い評価を受けているセクターがございます。

新規事業分野でのイノベーションも進んでいます。世界で最も成長しているフィンテックをはじめ、自律走行車からサイバーセキュリティまで、多岐にわたる最先端のイノベーションでも英国は先頭を走っています。2015 年には 42 万を越える新しいビジネスが英国で設立・起業されました。

単一市場の自由貿易は英国政府にとり、これから先も、最も重要な案件の一つです。

英国政府の役割は、EU と、現在の英国の強みを損なわない関係を構築すること、また、守るだけでなく、より強い関係を築きあげることです。

EU 離脱に関しては、急にその利点に目を向けることは簡単ではないかも知れませんが、良い点も考えられます。

今ここで確約することは難しいですが、例えば、規制に関してはビジネスにとり有利にはたらくでしょう。英国は規制を緩和する方向であり、今後はより積極的に、自由にその政策を推し進めることができます。この決定は、今日お集まりの皆様方のような企業にとり好機でもあると思われれます。

英国では首相、外務大臣、ビジネス・イノベーション大臣が今週、単一市場へのアクセスを維持する為の話し合いを既に進めています。

ここで、私たちは皆様に二つお願い致したいことがございます。

まず、皆様が単一市場に感じる魅力、その具体的な要素、そして皆様のビジネスに特に影響のある条件や権利を、是非、具体的にご教示いただきたく存じます。例としては、単一パスポート制度、工業製品輸出時の関税免除、英国から EU 諸国に製品を搬出する際の繁多な手続きの軽減、などが挙げられるかと存じますが、皆様のお声を、是非、お聞かせください。

また、英国に求める規制撤廃についても皆様のご意見を是非、伺わせて頂きたい、お願い申し上げます。次の政府は縦割り行政の弊害排除を強力に推し進めるでしょう。具体的に、どのような規制撤廃が、皆様の英国でのビジネスを利することができますでしょうか。これら具体的なご意見が反映されれば、事業規模に関わらず、企業にとり、大きな便益となります。

今回の英国の EU 離脱は、英国への投資先に、以前より良い条件を提示することが出来るはずで

政治面でも、日本政府と緊密に連絡をとっています。月曜日には岸田外務大臣と、昨日は麻生財務大臣とお会いしてまいりました。日本と英国は広く深い関係にあり、価値観を共有しています。日本の G7 におけるリーダーシップは我々の共通のコミットメントである民主主義や法の遵守の表れです。

英国の EU 離脱は結果的に政治的・商業的にさらに日本との関係を強めることも、考えられます。

英国の EU 離脱に対する皆様のご懸念は重々存じております。英国政府を代表して、皆様のご懸念を、是非お聞きかせ頂きたいと存じます。それらを最少にとどめる、もしくは解決するために、私たちは出来る限りの努力を致します。皆様のビジネスにとり、英国がさらに良い投資先となるため、皆様と英国政府をつなぐコミュニケーションをこのミーティング から始められればと存じます。

重ねまして、力強い経済、投資に最適な、友好的な環境を維持することは、国民投票の結果の影響を検証している英国政府にとり、最重要案件のひとつです。英国は欧州で No. 1 の、海外からの投資先です。昨年英国への 2 番目に大きな投資元の国は、日本でした。ジョージ・オズボーン財務相の言葉ですが、英国経済は力強く、競争にも強い。そしてビジネスに対して開放的です。皆様のご質問全てに対して回答をご用意することは、今すぐには難しいかもしれませんが、随時、最新の情報を共有させて頂きたいと存じます。

何より、皆様のご懸念点をよく理解し、共にビジネスに対する強さを構築していきたいと存じます。